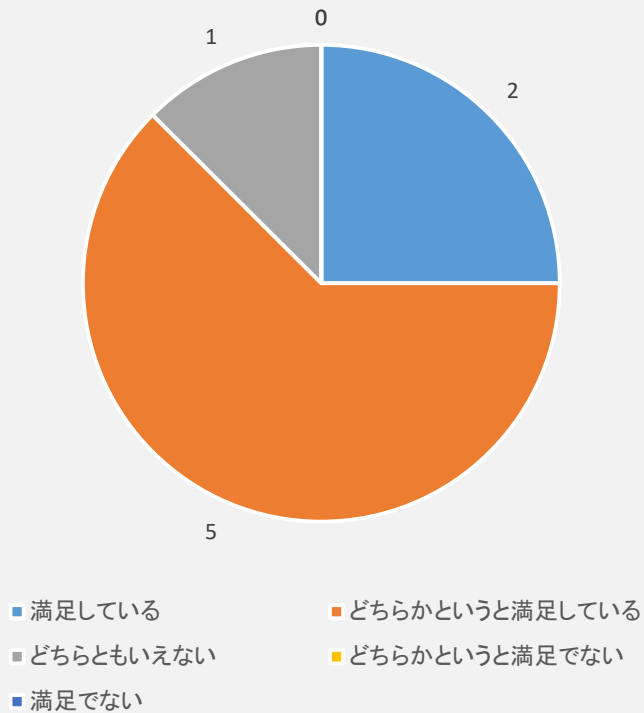


検討会 5 回目アンケート結果

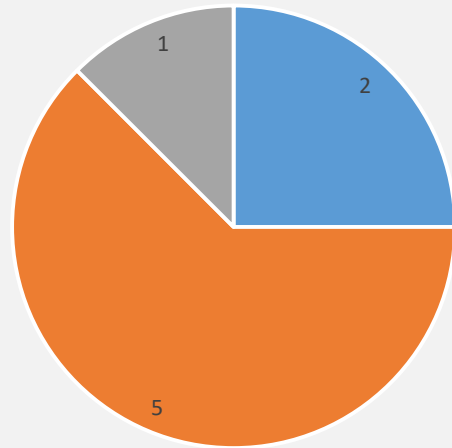
問1,今年度の検討会や検証を通じて、検討した人材育成機能の手法及び内容に対する満足度をお答えください。



#	選択肢	コメント
1	満足している	毎回、皆様の貴重なご意見が聞くことができ、育成をデジタルに落とし込んでいく過程を見ることができるため。
2	どちらかという満足している	福祉分野の人材育成に関して考える材料になった。
3		人材育成機能の内容が実際に使ってみたいと思えるような内容となったため。
4		概ね期待してるが、今回実装する項目が1つとのことと実際の業務のどの場面で利用できるかどうか、まだ自分自身で想像できていないため。
5	どちらかという満足している	人材育成については、人が人に行うものだと思っていたが、検討会を通じ、AIが人材育成の一部を担っていくことなることに驚いた。このAIが今後の人材育成のサポートになるもとの感じた。
6	どちらともいえない	蓄積したデータベース（事例）がUpdateされることが必須だと考えていたため。ニーズや支援手法・アプローチなどは時代と共に変わっていくものでUpdateしないシステムは化石化し、魅力ある使えるシステムにはならないため、十分検討が必要。

検討会 5 回目アンケート結果

問2,人口減少社会において、今後、福祉相談分野の人材確保がより困難になっていく可能性がある中で、多機関協働事業者として、AIの回答内容が人材育成という観点で業務に有効であると感じたかお答えください。

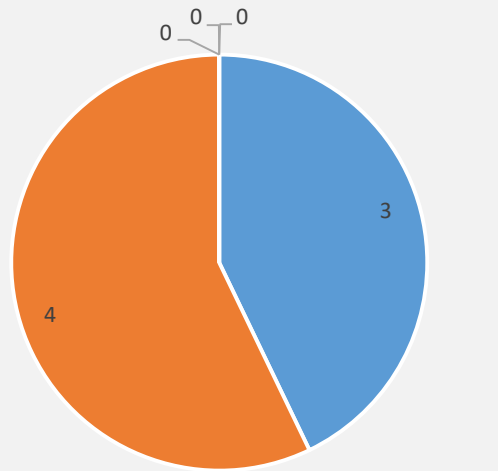


- 有効
- どちらかという有効
- どちらともいえない
- どちらかという有効でない
- 有効でない

#	選択肢	コメント
1	有効	常に学習機能があり、システムとしてUpdateすることを条件として有効と考える。知識や経験者を継続して担当業務に配置していくことが難しくなる中、AIによるアドバイス、業務の要点整理などに有効である。
2		人力の限界は必ずあり、受ける側としても先輩職員だけではないツールがあることが選択肢が広がり喜ばしい状況であると思うため。
3	どちらかという有効	経験により獲得するというプロセスをある程度短縮できるため。
4		自分で考える余地を残しつつも質問や確認すべき事項のヒントを得ることができ、人材育成におけるツールのひとつとしては良い。
5		AIの回答は自分の意見との答え合わせにもなり役に立つように感じた。しかし、今後人口減少により指導する人がいない現場で従事することになる人が増えていく中、その時にAIの回答が正しいのか正しくないのか判断できる職員もいない環境でAIをどこまで信じどう使っていくかが大事になってくると感じた。

検討会 5 回目アンケート結果

問3,人口減少社会において、今後、福祉相談分野の人材確保がより困難になっていく可能性がある中で、多機関協働事業者として、データを活用することで、人材育成にかかる業務の効率化や人材育成に関する取り組みの質の向上につながると感じましたか。



- 感じた
- どちらかというと感じた
- どちらともいえない
- どちらかというと感じない
- 感じない

#	選択肢	コメント
1	感じた	常に学習機能があり、システムとしてUpdateすることを条件として有効と考える。知識や経験者を継続して担当業務に配置していくことが難しくなる中、AIによるアドバイス、業務の要点整理などに有効である。
2		相談対応という人でないに対応できない業務以外でデジタルによる効率化ができる場面は、どんどん普及することが望ましいと考えるため。
3	どちらかというと感じた	指導する・される時間の短縮にはつながると考えるため。
4		これまでの事例データを活用することで、成功談や失敗談などの経験や知識の継承ができるため。
5		経験のない職員にとっては、データから学ぶことも一つの手段だと思いため、有効ではある。

検討会 5 回目アンケート結果

問4,人口減少社会において、今後、福祉相談分野の人材確保がより困難になっていく可能性がある中で、多機関協働事業者としてどのような場面で人材育成機能を活用したい・有効と考えられるか（例：上司が不在で相談できない時など）お答えください。

#	カテゴリー	コメント
1	業務を推進する場面	支援方針の検討や関係機関にアセスメントを取るときなど、一定の経験が必要になる場面。
2		自らが考え、意見や発言をする場面、業務を推進していく場面において有効である。
3	新人職員への説明場面	新しく入った職員（新規採用や人事異動など）に対し、ケースファイルを見せながら事業や実務の説明をする時に、この育成機能を活用することで、実務のより明確なイメージを持つことができ、多くのケースをシミュレーションできる。
4	上長に相談する前段階で、自分自身で整理する場面	多機関協働事業は、基本的には職員数は少ないと思われ、人手が少ない環境で、自身を振り返る際に活用可能。
5		上司・先輩が不在で相談できない時。初めて多機関協働事業に従事するとき。
6		一人で相談業務を担当している職場（小規模自治体の担当者等）。上司に聞く前に相談員が自分の考えを整理し深めるため。
7		上司が不在で相談できない時や、自身が決めた支援方針との答え合わせなど、幅広い活用が可能。
8	その他 (すべての職員に対して)	新人職員に関わらず。職員すべてが利用できるようにしたい。

検討会 5 回目アンケート結果

問5,検討会への感想をご記入ください。

#	カテゴライズ	コメント
1	良かった点	活発な意見交換ができた会であった。
2		システムの開発の過程を見ることができ、貴重な経験をさせていただいた。また、日頃行っている相談業務における思考のプロセスを言語化することが、とても新鮮に感じた。この検討会を通して「言語化」を意識するようになった。
3		県内担当者と業務推進にむけた献身的な議論を行うことができ大変参考となった。
4		ZOOMだったので、いつもより意見交換がしにくかったが、皆様の意見を聞くことができ、参考になった。実際の運用については、予算のこともあるので、自治体職員が必要を理解する必要があるのだと改めて感じた。
5		自身の振り返りの機会として、とても勉強になった。
6		他の機関の方々の意見を聞くことができ勉強になった。また、発言しやすい雰囲気づくりなど検討会の内容のほか、その場の空気づくりなども勉強になった。一つひとつの発言・意見がシステムに反映され、形になっていくことがなんともいえない不思議な感じがした。
7		検討会 5 回目に参加して、システム全体の構成について理解ができた。システムの導入コストが早い段階で分かれば、システム導入の可否の検討が早めに行える。
8	改善点	SaaSでの提供という形となり、自治体が予算として計上して購入する必要があるサービスの開発への協力という形となるのであれば、当初からそのような説明を参加者にしておくべきであったと思う（多くの参加者は、今回の検討会に参加し、はじめて知ることになった）。検討会において、繰り返しの説明がなされている部分と、上記のようにまったく知らなかった部分もあり、疑問点が多かった。また、多機関協働事業の改善という目的に照らせば、多機関協働事業業務支援ツールの改善を図ればよかったのだと思う。新たなシステムを一から開発するという今回の形式では、開発コストは言わずもがな、導入する多機関協働事業者のコストや心理的ハードルも大きい。

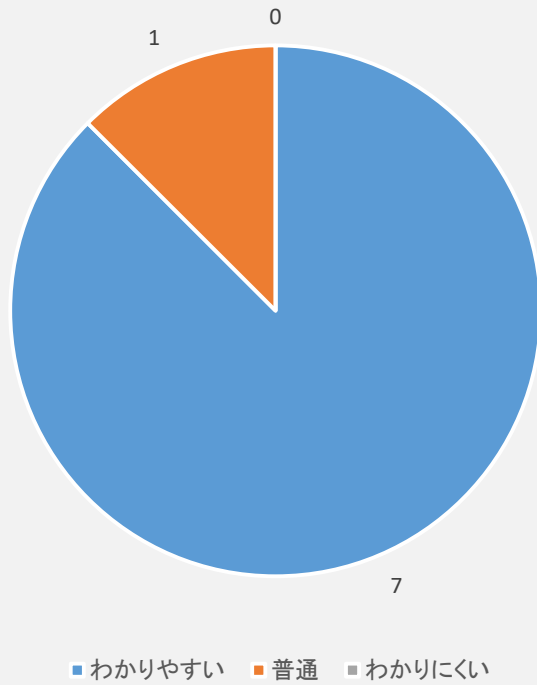
検討会 5 回目アンケート結果

問6, AIを活用したソリューションについてご感想やアドバイスがあれば教えてください。

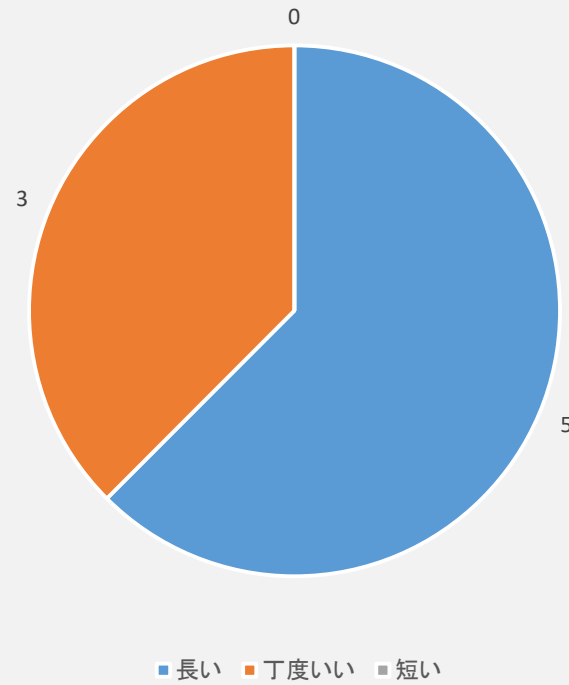
#	コメント
1	機能面でのご説明についてはまとまっていて素晴らしい。「具体的な使用例」みたいなものがあると、より使用場面を想像しやすい。
2	AIは常にUpdateするものであり、システム開発においては学習機能が無いのであれば、システムとしては化石化してしまう。
3	とても便利なツールなので、業務のスリム化などに活かしたいと感じた。
4	最初は、AIが福祉の現場で使われていくイメージはなかったが、この検討会を通じ、AIが当たり前存在となっていき、どの職業分野においても、AIを活用していく必要があり、どう活用していくかをあたりまえに考えていかなくてはいけないと感じた。

検討会 5 回目アンケート結果

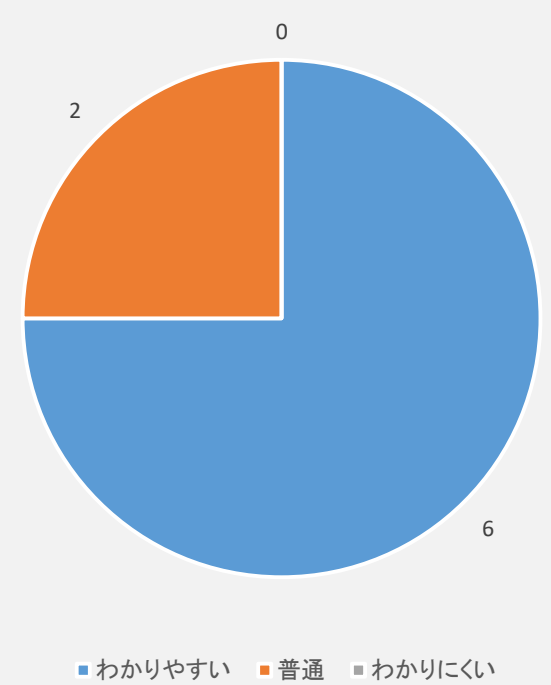
問7,検討会の進行に対するご意見



問8,検討会の時間は適切か

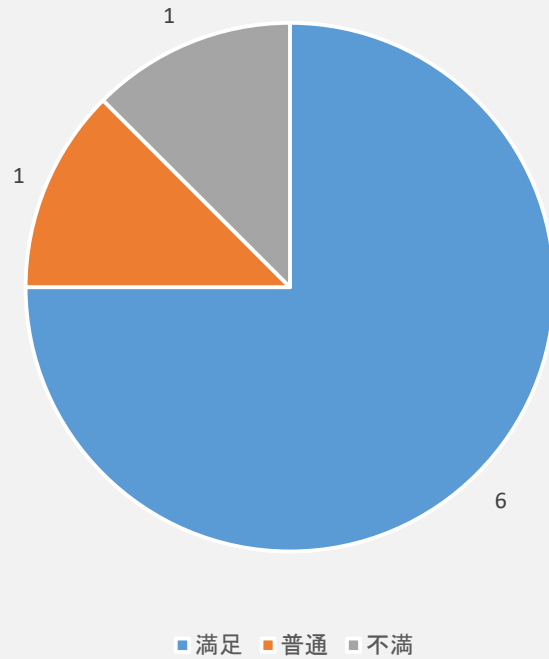


問9,検討会で使用した資料について



検討会 5 回目アンケート結果

問10,検討会に対する満足度



問7,満足度を選択した理由

#	選択肢	コメント
1	満足	多くの学びがあり、意識が変わった。
2		ベンター（日立製作所）の聞き出す力、ファシリテーション能力が高く、実のある議論を行うことができた。
3		いろいろな意見を聞くことができたため。